

打合せ記録簿

-			4頁	
委託者名	福山市		受託者名	株式会社 長大
件 名	第1回道の駅アリストぬまくま再整備基本計画 検討会議		整理番号	
日 時	2025年7月31日（木） 10：00～12：00		場所	福山市沼隈支所会議室
出席 (敬称略)	有識者	福井工業大学	工学部教授	下川 勇
		株式会社インプリージョン	観光まちづくり プロデューサ	千葉 深香
		中国「道の駅」連絡会	事務局	足立 司
	国	国土交通省 中国地方整備局	福山河川国道事務 所 副所長	杉原 義和
	県	広島県	東部建設事務所	池上 由美子
	市	福山市	参事（兼）経済環 境局長	中津 雅志
			企画財政局参事	池田 圭次
	道の駅 駅長	有限会社アリストぬまくま	代表取締役	西迫 豪志
	観光・体 験部会	福山市観光コンベンション協会	常務理事 兼 事務局長	石口 和寛
	地元	ぬまトーク		河野 真治
		ぬまトーク		佐藤 有香
	オブザー バー	国土交通省中国地方整備局	道路部 交通対策課 課長	伊藤 等
		広島県	道路企画課 課長	西川 貴則
		福山市	農林水産振興担当 部長	卜部 光央
			農林水産課長	林 茂晃
			農林水産課 企画担 当次長	徳永 嘉則
			農林水産課 主事	西田 昇
	ファシリ テーター	株式会社長大		今井、西坂、戸田 柚山、久保田、
協議資料	資料1_委員名簿 資料2_道の駅アリストぬまくま再整備基本構想【概要版】 資料3_報道発表資料：第3ステージ応援パッケージ - 国土交通省 資料4_今後の進め方について 資料5_その他 資料6_講演資料 別紙_配席図			

第1回道の駅アリストぬまくま再整備基本計画検討会議（以下、「検討会議」という）は、以下の次第に則り実施した。

0. 次第

1. 開会
2. 自己紹介【資料1】
3. 報告事項
 - (1) これまでの取組について（基本構想）【資料2】
 - (2) 第3ステージ応援パッケージについて【資料3】
4. 協議事項
 - (1) 今後の進め方について【資料4】
 - (2) その他【資料5】
5. 【講演】「道の駅」について【資料6】
6. 閉会

1. 今後の進め方について【資料4】

意見や質問の上がった項目について整理する。

- ・ 今年度は、導入機能や施設配置などの具体的な中身を議論していくために、産直部会・観光・体験部会を設ける。また、住民主体の地域の協議会として「ぬまトーク」を設けており、第1回は7月初旬に実施済みである。第2回は8/4、第3回は9/4に開催予定である。本日の検討会議には、ぬまトークからは2名が参加している。（福山市 | 林課長）
 - 一番重要だと感じているのは、「道の駅」第三ステージ応援パッケージ（以下、「応援パッケージ」という）の「まちぐるみ」の取組についてであると感じている。前年度を踏まえた上で、産直部会、観光・体験部会に分けるのは良いと感じている。また、道の駅は広く利用者を想定するものだが、まずは地元からというのも良いと感じている。2022年に福山城の築城400年事業に取り組んでおり、市民の地元からの愛着・誇りのために実施した。PRはそのあとにつなげていけるのが良いと思う。いただいた内容の通り、進めていけたらと考えている。（池田参事）
 - 今後、第2回目のぬまトークを実施していくが、取りまとめにお時間を頂戴できればと考えている。今後の進め方に関して異論はない。（ぬまトーク | 河野氏）
 - 事務局を引き継いで5年目になる。検討会議の雰囲気が良いと感じている。各部会を作られているのはとても良いことだと思う。（中国「道の駅」連絡会 | 足立）
 - 全国に道の駅が1200を超え、中国地方には108の道の駅がある。多くの道の駅がこれからリニューアルを検討していくということで大変悩まれている。道の駅アリストぬまくまは、全国で10駅の応援パッケージに選ばれており大変名誉なことだと感じる。中国地方の道の駅の明るい希望になる再整備になればいいと感じている。（有限会社アリストぬまくま | 西迫）
 - 楽しんで議論することを大事にしている。道の駅をみんなで作っていくことを重視している。また、産業振興を大事にしたいと感じている。この地域で勤める人が増え、子供が増え、その試金石に本整備事業がなればよいと感じている。一方で、地球環境が問題となっており、それを無視するということではできない。環境の視点で世界基準になるような再整備事業にしていきたい。（福井工業大学 | 下川）
 - スケジュールとしては、ご記載の通りタイトなスケジュールではあるが、いただいた意見を踏まえて進めていきたいと考えている。（福山市 | ト部部長）

2. その他【資料5】

意見や質問の上がった項目について整理する。

- ・ 現施設には、施設の老朽化、駐車場不足、道路からの視認性といった課題がある一方で、隣接地には図書館があり、今後連携が必要になると感じている。再整備をどこで実施するかに

については、共通認識を持たせていただいたうえでの検討とするのがよいのではないかと感じているため、現地でのリニューアルを前提に検討をしたいと考えている。また、課題に関して、駐車場不足について挙げているが、建物の集約化、多目的広場の活用などで解決できると考えている。従前の議論の中で、海が見えるところという意見もいただいていたが、現在の道の駅を長らく利用いただいた方々を大切にしながら、引き続きご利用いただければと考えている。(福山市 | 林課長)

- 基本構想策定時から、場所の確定がなされていなかったために議論が集約していかなかった側面があった。庁内で精査いただき、課題を抽出したうえで、現状の位置は地元利用者や認知の上で、良いのではないかと考えているが、現地でのメリット・デメリットについてお教えいただきたい。(福井工業大学 | 下川)
- 敷地の総面積がデメリットだと感じているが、広場の活用や、建物と山の間の敷地を有効活用し、動線・配置計画で解決していけると考えている。視認性に関しては道路の湾曲具合で見えづらいと認識しているが、商業施設なら重要な観点だが、道の駅は公共施設であり目的地になる場所であるので、案内看板を表示することで解決できると考えている。海が見える場所を敷地として検討するという意見があるが、周遊拠点としてのありかた、周辺事業者との連携といった観点を重視するべきだと考えている。(福山市 | 林課長)
- コストの観点はどのようにお考えか。一般的に言うと、これから土地を探す時間・コストがかかるが、どのようにお考えか。(福井工業大学 | 下川)
- 県道沿いで探してみたが、有力な土地は見つかっていない。コストについても着工が遅れることでコストがかさむことは考えられる。この度、応援パッケージで3年の支援をいただけるということで、この間で検討を進めていきたいと考えている。(福山市 | 林課長)
- 対面道路からの視認性が課題とあるが、道の駅というのはそもそも道路利用者の利便性について確認することが重要である。国交省・広島県がメンバーに居るので、現地での確認が重要ではないかと感じている。(中国「道の駅」連絡会 | 足立)
- 今後の課題として捉えている。(福山市 | ト部部長)
- 道の駅の機能に「まちづくり」の拠点とあるが、現在の敷地において優位性についてお伺いしたい。また、営業の可否についてお伺いしたい。(福山市観光コンベンション協会 | 石口)
- 図書館との連携や、沼隈支所、体育館などの公共施設との連携が期待できる。休業については申し上げにくいですが、図書館の近くに建てれば、休業期間は短くすることができるのではないかと考える。(福山市 | 林課長)
- 現地での建て替えについては、賛成でも反対でもないが、本日、現地の横を通過したとき、後ろの山の風景が素敵だと感じた。このロケーションに合う建物を作れば目的地となりうるのではないかと考えている。どういった方が来られるかを考えると、基本的には車で、来客で、車からの来客や、道の駅を目的地としてなど、いろいろなルートが考えられる。それを検討しないといけないと感じる。ここから旅が始まることをイメージさせることが重要だと感じている。また、先ほどの海が見える敷地を巡る議論に関して言及すると、気仙沼の牡蠣漁師がおっしゃっていた言葉で、「森は海の恋人」という言葉があり、森を育てないと、魚が取れないことを示していた。つまり、海をはぐくむ、森の役割を考えるための場所という役割も良いのではないかと。森を育てるために、川のごみ拾いを実施することや、ここで買った魚の内臓を肥料にして植物を育てるなど、循環型の道の駅を作るというのもあるのではないかと。(株式会社インプリージョン | 千葉)
- 山は福山市と民間の所有であり、今後一体的な整備を検討している。(福山市 | ト部部長)
- 場所に関して、多くの関心が寄せられており、反対ではないが、決定のプロセスについて詳しく教えていただきたい。また、観光について、現在の敷地で事業を実施できるという認識でよいか。(有限会社アリストぬまくま | 西迫)
- 観光の視点に関しては、景観だけでなく、現在の敷地で部会を通して検討していく。

(福山市 | 林課長)

- 現地での建て替えについてメリット・デメリットを生産者等に説明する機会が今後出てくるため、整理していただきたい。また、駐車場の導線について、あまり良いとは言えない状況で、地域住民から苦情が出ている。さらに、裏山が近接しているため、防災の観点からも再整備の観点から今後検討していけたらと考えている。(有限会社アリストぬまくま | 西迫)
- 現地建て替えについての反対意見はなかったが、検討のプロセスについては共有できるようにしていただけたらと思う。(福井工業大学 | 下川)
- 山に秘密基地を作った記憶がよみがえった。ぬまくま地域の小中学校を再編した「想青学園」ができ、地域食堂を始めたので、沼隈が1つになるきっかけを学校が作ったと思っている。当時もたくさんの反対があったが、それをいいきっかけとして、地域を盛り上げるために地域食堂を始めた。子どもたちが学ぶきっかけができたので、歩いて来て、道の駅で生産者のことを学ぶなど、還元できる場所になれば良いと思っている。(ぬまトーク | 佐藤)
- 基本構想作成時に体験コンテンツを作っていくという話があり、自身のイメージでは、沼隈半島全体が観光化するイメージがあった。誰が利用するかを考えた時、小学生の学びの場所というイメージがあった。現在は地元の比較的高齢の方の利用が多いと思うが、子どもの学習・体験の場になると良いと感じている。(福井工業大学 | 下川)
- 海が見える場所も素敵だなと思うが、県道沿いだとならぬ浦の近くになってしまう。その場合、鞆をイメージしたお土産がニーズに合うのではないかと考えている。したがって、現地での建て替えであれば、沼隈をイメージした商品になるのではないかと考えている。(福山市 | 中津)
- 県の立場としては、30年前の議論があつての現在の土地だと考えている。当時としてはこの程度の規模であったが、駐車場の不足はうれしい悲鳴だと考えている。現在地ということでしたら、昨年度から駐車場の改修をさせていただいているが、別の敷地の場合、一步引いた立場で引き続き支援出来たらと考えている。(広島県 | 池上)
- 敷地に広島県の土地が一部入っているため、引き続きご支援をいただけたらと思っている。(福山市 | ト部部長)
- 道の駅は、情報収集、休憩などを目的として発生し、現在では地域振興を考えるフェーズになっている。皆様の意見を集約したうえで、現状の課題は技術的に解決していればと考えている。(国土交通省 中国地方整備局 | 杉原)
- 当初は海の駅として構想されれば良いのではないかと考えていた。一方で、ぬまトークに参加する中で、地域の方々が活躍できる場所と考え、現敷地は、海周辺の人も山周辺の人も集まりやすい位置にあると考える。また、ここが福山市唯一の道の駅として、海だけでなく、山もある福山全体の観光のハブとして成り立てばよいと感じている。観光客の目線に立つと、道の駅が寄る場所になれていないのが現状であるため、産業・文化を含めて、ここに来れば何かがあるという場所になればよいと思う。(ぬまトーク | 河野)
- 福山市全体の玄関口として整備したいという意気込みは、今後皆様と協議していけたらと考えている。まちづくりの視点で言うと、建物も重要だが、それを支えるソフトが重要である。海の近くに何かを整備することが重要であれば、出張所のような形でプレハブを設けるだけでも成立すると考えられる。つまり、今後はソフト事業をどのようにするかが肝要になる。事務局案としては、部会を推進するにあたり、現敷地を想定としたうえで進めていきたいということで整理できる。現敷地を選定した理由については今後、丁寧に説明をいただきたい。(福井工業大学 | 下川)
- 正式には、基本計画の中で決定していけたらと考えている。(福山市 | ト部部長)

以上

打合せ記録簿

-			4頁	
委託者名	福山市		受託者名	株式会社 長大
件 名	第2回道の駅アリストぬまくま再整備基本計画 検討会議		整理番号	
日 時	2025年8月28日（木） 10：00～12：00		場所	福山市沼隈支所会議室
出席 (敬称略)	有識者	福井工業大学	工学部教授	下川 勇
		福山市立大学	都市経営学部 准教授	辻 紳一
		株式会社インプリージョン	観光まちづくり プロデューサ	千葉 深香
		中国「道の駅」連絡会	事務局	足立 司（欠席）
	国	国土交通省 中国地方整備局	福山河川国道事務 所 副所長	杉原 義和
	県	広島県	東部建設事務所	池上 由美子
	市	福山市	参事（兼）経済環 境局長	中津 雅志
			企画財政局参事	池田 圭次
	道の駅 駅長	有限会社アリストぬまくま	代表取締役	西迫 豪志
	観光・体 験部会	福山市観光コンベンション協会	常務理事 兼 事務局長	上田 英夫
	地元	ぬまトーク		河野 真治
		ぬまトーク		佐藤 有香
	オブザー バー	国土交通省中国地方整備局	道路部 交通対策課 課長	伊藤 等
		広島県	道路企画課 課長	児玉 崇
		福山市	農林水産振興担当 部長	卜部 光央
			農林水産課長	林 茂晃
			農林水産課 企画担 当次長	徳永 嘉則
			農林水産課 主事	西田 昇
	ファシリ テーター	株式会社長大		今井、西坂、戸田
協議資料	資料1_委員名簿 資料2_再整備に係る移転の検討 資料3_産直部会、観光体験部会の報告 資料4_基本計画骨子（案） 資料5_次回協議事項について 別紙_配席図			

第2回道の駅アリストぬまくま再整備基本計画検討会議（以下、「検討会議」という）は、以下の次第に則り実施した。

- ・ **次第**
- ・ 開会
- ・ 会議参加者のご紹介【資料1】
- ・ 報告事項
 - (1) 再整備に係る移転の検討【資料2】
 - (2) 産直部会、観光体験部会の報告【資料3】
- ・ 協議事項
 - (1) 基本計画骨子（案）【資料4】
- ・ その他
 - (1) 次回協議事項について【資料5】
- ・ 閉会

・ **報告事項について【資料2】**

意見や質問の上がった項目について整理する。

- ・ 資料に記載されている、②海が見える場所とは、どのような場所を指しているか。（ぬまトーク | 河野）
 - ・ →具体的な検討はない。能登原小学校の坂になっているところ付近を考えていた。（福山市 | 林課長）
 - ・ →裏山の活用について、実現可能かはわからないが、リフトやケーブルカーを活用し、頂上に上れば海を見ることは可能なので、現地でも海を見るということ是可以する。実現が難しいことは理解しているが、登山道の整備等は考えられるかもしれない。（ぬまトーク河野）
 - ・ →基本計画の検討に活用させていただけたらと思う。（福山市 | 林課長）
 - ・ →メリット・デメリットを整理いただき、合理的な検討であることについて理解した。なぜ②海が見える場所でないのかを、理由がわからない人に説明できるよう準備することは重要である。（福井工業大学 | 下川）

・ **報告事項について【資料3】**

意見や質問の上がった項目について整理する。

- ・ 各部会について、次回以降、具体的な検討に進み、基本計画に落とし込んでいけたらと思う。（有限会社アリストぬまくま | 西迫）
 - ・ →福山まるごと体験推進協議会が実施されている、教育旅行の観光体験プログラムで団体向けのプログラムは多数ある。したがって、個人を重視することが重要だと考えている。海苔の体験など、特徴的な体験ができれば、体験プログラムが充実するのではないかと考える。（株式会社インプリージョン | 千葉）

・ **協議事項について【資料4】**

意見や質問の上がった項目について整理する。

- ・ コンセプトの「体験・発見」という言葉がやや抽象的に感じる。何を体験し、何を発見するのかが見えづらい。例えば「山と海が握手する」といった一言でイメージできるような表現が欲しいと思う。（株式会社インプリージョン | 千葉）
 - ・ →今の時代、要素の「掛け算」が必要だと思う。海だけでは「しまなみ海道」には勝てない。ここにしかない要素を掛け合わせていく必要がある。（ぬまトーク河野）
 - ・ →ここにしかない、がキーワード。皆さんは身近すぎて気づけないのかもしれない。そこで、基本構想のスローガンが出てきている。抽象的なスローガンではあるが、様々な意見の集約なので、改めて見直し、方向づけができたらと思う。（福山市立大学 | 辻）
 - ・ →さらに「絶対的な価値観」も必要だと考える。例えば環境問題。屋上緑化や環境に配

慮した取り組みを通じて「地球温暖化に貢献する道の駅」であると示すことができる。ソフト面を含めて、誰をターゲットにするのかを明確にしなければならない。テーマの絞り込みに関して、イメージを体系化する日本、世界、福山道の駅、沼隈半島、福山市全域、産業、環境について図示されたものが必要なのではないか。(福井工業大学 | 下川)

- ・ →本当にここにしかないものをどうやって探っていくか。地元の人に聞くしかないのではないか。時間が足りなさすぎるのではないか。(福山市立大学 | 辻)
- ・ →外部の目線だけだと経験則から持続が難しいと思っている。最終的には地域の方が進めていきたいものであることが持続には重要だと考える。短期間ではあるが話をする中で見出ししていけたらと思っている。(長大 | 今井)
- ・ →ぜひぬまトークにもご参加いただけたらと思う。(ぬまトーク | 河野)
- ・ →地域振興、観光体験機能について両輪で考え、基本計画の中に盛り込んでいけたらと考えている。(福山市 | ト部)
- ・ 章立てはその通りではあるが、各部会での議論を参照する必要がある。部会が別個で動くのは良くないと感じる。紙に書いて終わりにしてほしくない。行政も協力し、議論がバラバラにならない運営を心掛けていけたらと思う。(福山市経済環境局 | 中津)
- ・ →沼隈といえば魚や果物のイメージがある。地元の推し商品と経営的に売れる商品をどうマッチングするかが重要である。モデルプランを作成し、議論を深めることが必要だと考える。(福山市企画財政局 | 池田)
- ・ →皆様のご意見を踏まえ、資料の構成を見直し、「ここにしかないもの」を整理する節を追加したいと思う。また、わかりやすい図を作成し、福山の資源・産業・観光を結びつけて示したいと考える。(長大 | 今井)

・ 協議事項について【資料5】

意見や質問の上がった項目について整理する。

- ・ 導入機能について、時間をかけた検討が必要ではないかと感じる。コンセプトに合致する機能となっているだろうか。地元を知ってもらったうえで絞っていく必要がある。ばらガーデンは以前設置していたが管理が難しく、無くなっているという経緯がある。(有限会社アリストぬまくま | 西迫)
- ・ →基本機能の観光案内所は必要だろうか。常勤で6、7人が必要になってくる。体験プログラムの実施、手間暇がかかるし、このエリアにプレイヤーがいるのだろうか。よくある道の駅も観光案内所があるが、デジタルサイネージやパンフだけという例もたくさんある。(福山市観光コンベンション協会 | 上田)
- ・ →観光案内所については同意する。一方でぬまくまの人が、来た時に案内してあげるなど。うまくマッチして運営していけたらと思っている。また、ローズガーデンについては、昨今のバラは耐性が向上している。ばらエキスポをイメージして、「福山」をめがけてくる人のために、裏山等を活用し、手間がかからず維持できるものとして、なんとか検討出来たらと考えている。(株式会社インプリージョン | 千葉)
- ・ →備考条件の使われ方について、誰が運営するかが不明瞭だから起きている議論だと認識している。1つ1つの事業については、まだ決められないところは出てくるとは思うが、最終的には基本計画の中の運営計画でまとめていけたらと考える。その際、モデルプランが1パターンだと議論が難しいので、必要な機能を整備したうえで、各施設ごとのプライオリティをつけ、複数案作成は可能であるので、モデルプランを基に今後議論出来たらと考える。(長大 | 今井)
- ・ →地域の人がどう思うかを考えていた。珍しいから数回のリピートはあるかもしれないが、その先に行かなくなってしまうかもしれない。話してる内容が大きく、イメージしづらくなっている。一方で、収益のことも理解できる。地域の人のためというのを改めて考えてほしい (ぬまトーク | 佐藤)
- ・ →地域の方に使ってもらえるものになるため、イベントなどが必要なのだと、話を伺い感じた。(長大 | 今井)
- ・ →地域の人为主役の観光である。観光は「地域の光」が語源であり、地域の人々の生活や

誇りが観光につながっている。したがって、この場所を使うのは、地域の人であり、地域の人が外からの利用者を受け入れる場でもある。コト・モノの循環を生み出し、交流していく必要がある。観光案内所のイメージは、「地域を教えてあげる場所」くらいの方がちょうどよいと感じる。(株式会社インプリージョン | 千葉)

- ・ →公民館の建て替えが進む中で、道の駅に交流館ができたかどうか。困ったら行く場所としてふさわしいと感じる。(ぬまトーク | 佐藤)
- ・ →実際に交流館が複合する事例はある。千年にも交流館があるので、すみわけが重要である。(福山市 | 卜部)
- ・ →お困りごとに関して相談を受ける場合は良くある。機能として名前を付けずに、思いやりを持ってやっていくことが重要だと感じている。心持が重要だと考える。もっと歩いて知ってほしい。会議と地元の感情がより融合していくことが重要だと感じる。(有限会社アリストぬまくま | 西迫)
- ・ →道の駅への登録の要件の精査が重要である。観光案内所については、1つの案としてはよいのではないか。交流を、集約すると千年だけになぜという議論が出てくる可能性がある。(福山市観光コンベンション協会 | 上田)
- ・ →今はレストランに機能を集約している。レストランには誰かがいるので、そこでお声がけいただけたらと考えている。(有限会社アリストぬまくま | 西迫)
- ・ →観光だけでなく、地元の人だけで続けられるだろうか。ぬまトークの人は入れ替わる可能性など、ずっと続けるのが難しいと思う。(ぬまトーク | 河野)
- ・ →道の駅に開業する際に用意しておくべきもの、開業後整備する必要があるものなど、時間軸の整理が重要であると思う。優先順位を付けていけたらと考える。また、挙げられている機能を見て、わくわく感がないと感じる。しかし敷地上の限界もある。例えば、海沿いに畳2畳のスペースを設けて機能を拡張させるなどすれば、現敷地だけで諸問題に対処という考えはなくなるだろう。沼隈全体に、道の駅の機能を拡張させる考え。ハード・ソフトの検討に加えて、地域を広くかつ長期的に見て考えて、沼隈全体をランドスケープとして設計するような視点が重要である。(福井工業大学 | 下川)
- ・ →キャッチフレーズを持つことが重要だと感じる。(福山市立大学 | 辻)
- ・ →発言がしやすい場所になった。地元のことをより知ってもらいたいと感じている。1点提案として、ぬまくまのある地域の、放作放棄が多い場所を活用し、観光農園として、スマート農業的な実践で、溶液栽培でブルーベリーの栽培をしようと画策している。加えて、地元には魚・野菜のみならず第一次産業で頑張っていこうとしている人がいる。まず地元の人に食べていただく取り組みをやっていけたらと考えている。提供できる情報をもとにブラッシュアップしていけたらと考えている。(有限会社アリストぬまくま | 西迫)
- ・ →改めて、道の駅が交流・地域の産業振興・市の周遊観光のモデル機能など盛りだくさんであるが、幅広い内容を時間軸を基に誰がやっていくかを含めて整理していけたらと考えている。(長大 | 今井)
- ・ →(福山市全体に対し) 1つ1つのコンテンツは強いが、それぞれがつながっていない。1本の柱が必要ではないか。コンセプトを明確化させてほしい。福山市と地域住民が一体になれる最初の事例になればよいと考える。(ぬまトーク | 河野)
- ・ →コンセプトはあるが、具体的でないという指摘で理解した。今後詰めていけたらと考えている。道の駅アリストぬまくまは、拠点として他施設とすみわけができていけたらと考えている。(福山市 | 卜部)

以上

議事録

件 名	第3回道の駅アリストぬまくま再整備基本計画検討会議			
日 時	2025年10月3日（木） 10：00～11：30		場所	ローズコム 4F 大会議室
出席 (敬称略)	有識者	福井工業大学	工学部 教授	下川 勇
		福山市立大学	都市経営学部 准教授	辻 紳一
		中国「道の駅」連絡会	事務局	足立 司
	国	国土交通省 中国地方整備局	福山河川国道事務所	杉原 義和
	県	広島県	東部建設事務所 参事	木戸 康弘
	市	福山市	参事（兼）経済環境局長	中津 雅志
			企画財政局参事	池田 圭次
	道の駅駅長	有限会社アリストぬまくま	代表取締役	西迫 豪志
	観光・体験部会	福山観光コンベンション協会	専務理事	上田 英夫
	地元	ぬまトーク		河野 真治
		ぬまトーク		佐藤 有香
	オブザーバー	国土交通省中国地方整備局	道路部 交通対策課長	伊藤 等
		広島県	道路企画課	児玉 崇
		福山市	農林水産振興担当部長	卜部 光央
			農林水産課長	林 茂晃
			農林水産課 企画担当次長	徳永 嘉則
			農林水産課 主事	西田 昇
	ファシリテーター	株式会社長大		今井、西坂、戸田
協議資料	資料1_今後の展開イメージ 資料2_産直部会、観光・体験部会の報告 資料3_モデルプランについて 資料4_導入機能の運営方針について 資料5_次回協議事項について（基本計画素案） 別紙_配席図			

第3回道の駅アリストぬまくま再整備基本計画検討会議（以下、「検討会議」という）は、以下の次第に則り実施した。

0. 次第

1. 開会
2. 報告事項
 - (1) 今後の展開イメージ【資料1】
 - (2) 産直部会、観光・体験部会の報告【資料2】
3. 協議事項
 - (1) モデルプランについて【資料3】
 - (2) 導入機能の運営方針について【資料4】
4. その他
 - (1) 次回協議事項について【資料5】
5. 閉会

1. 開会

要点を整理する。

- ・ 当初スケジュールにはなかったが、次回以降の検討会議で機能について議論していく。（卜部）

2. 報告事項

(1) 今後の展開イメージ【資料1】

(2) 産直部会、観光・体験部会の報告【資料2】

長大から資料の説明を実施し、意見や質問の上がった項目について整理する。

- ・ この資料をどう見るかが重要である。時を経て拡張していくという説明があったが、別の視点で、バックキャスト的に「これを成り立たせるためには」何をしていくかが重要である。（福井工業大学：下川）
- ・ 基本機能は道の駅を成立させるために必要な機能である。独自機能を成り立たせるためには、誰が使うかが議論されていくことが重要である。今後も検討を続ける必要がある。例えば、レンタサイクルに関しては、個人的にはあると良い機能であると思うが、設置すると、長時間駐車しますが占有されることになる。今後の設置も考えて、議論を深めていく必要がある。（福井工業大学：下川）
→機能の取捨選択が必要である。座長の意見に同感である。（福山市：池田）

3. 協議事項

(1) モデルプランについて【資料3】

(2) 導入機能の運営方針について【資料4】

長大から資料の説明を実施し、意見や質問の上がった項目について整理する。

- ・ 面積を算出するにあたり参照した3駅の理由についてお伺いしたい。（中国「道の駅」連絡会：足立）
→同等規模事例及び「道の駅」第3ステージ以降の事例を参照した。（長大）
→「道の駅」第3ステージは、機能について以前から変更したものではないため、「道の駅」第3ステージ以降にこだわる必要はない。道の駅アリストぬまくまとしてどういった事例を参照するかが重要である。（中国「道の駅」連絡会：足立）
→道の駅アリストぬまくまは、ポテンシャルが高く、自信を持って良いと思う。防災計画についてお教えいただきたい。（中国「道の駅」連絡会：足立）
→道の駅アリストぬまくまは、広島県道路啓開計画において、広域防災拠点として設定されている。大規模地震発生時には、自衛隊や警察などの救援活動の拠点や緊急物資等の基地として活用することが期待されている。（事務局：卜部）
- ・ 基本計画では面積の算出が必要である。算出に当たり、各機能に対して最小の絶対値はあるはずだと考える。ゆえに他の道の駅を参照しながらでは難しいと思う。（福井工業大学：下川）

- 機能についてはまだ決定しているわけではないと認識している。(有限会社アリストぬまくま：西迫)
- ・ 資料4の独自機能の多目的スペースの設置時期はどうして順次となっているのか。(福山市：中津)
 - 実施内容に対して順次実施を意図しているためこのような表記となっている。面積の算出に当たっては、他事例の参照のみによる算出ではなく、機能によっては必要な席数などからも算出する。(長大)
 - 多目的スペースは現状の室名だと、用途が特定されないため、必要以上に面積が大きくなり危険である。今後検討が必要である。(福井工業大学：下川)
- ・ 体験サービスについて、機能は入らないのに箱だけでできる可能性がないか。(福山市：池田)
- 機能に関しては今年度決定し、2029年の運用開始に向けて議論を重ねていく。(事務局：卜部)
- ・ 施設は一体型として考えているという認識である。トイレ、情報発信については県が設置されることにならないのか。(有限会社アリストぬまくま：西迫)
 - 今後協議していく。(事務局：卜部)
 - 基本機能について整理が必要と考えている。(広島県：木戸)
- ・ 地元の人々が道の駅を活用し、地域を良くしたいと考えている。神楽団は月1回程度のイベント開催し、他団体との連携も視野にいられている。未使用のステージを活用し、体験型コンテンツやeスポーツなど子供の居場所づくりも検討していきたい。施設全体に一体感を持たせ、ガラス張りのオープンスペースなど開放的な設計が望ましいと考えている。(ぬまトーク：河野)
- ・ ぬまトークや地元の人と共同で、レストランに提供する料理のお皿を焼いてもらうことを考えている。また、今月中に発売する商品として、周辺に阿伏兎観音があるので、おっぱい饅頭を作った。(有限会社アリストぬまくま：西迫)
- ・ いわゆる道の駅にあるようなキッズスペースは不要であると考えている。それよりも、図書館との連携が重要ではないだろうか。ローズコムのようなイメージで、あのエリア全体を子供の居場所とするのがいいのではないか。キッズスペースに人員配置が想定されていないので、人員配置できることを前提とすることが重要だと考えている。(ぬまトーク：佐藤)
- 道の駅アリストぬまくまは、笠岡道の駅や世羅道の駅から1時間程度の距離にあり、子供の昼寝の時間を考えてもちょうどいい距離にある。(ぬまトーク：佐藤)
- 子供が消費に直結しないのであれば、体験と結び付けても良いのではないか。例えばハーブ園で土に触れるなど。(ぬまトーク：河野)
- 東広島に大きなキッズスペース付きの道の駅ができた。ここまでの規模は想定していないが、図書館との連携において子供の視点は重要だと考え、今後も協議していく。(事務局：卜部)
- 近隣には特別支援学校や中学校などがあり、子供たちとの話し合いができる場を設けられたら良い。(ぬまトーク：佐藤)
- 図書館との連携において子供の居場所について考えていなかったのも良い意見だと感じる。規模については基本設計時に詰めていくので、現時点で心配はしていない。多目的スペースは神楽を中心とするか否かで変わってくるので、継続的に議論が必要である。福山市とも調整していき検討を進めていけたらと考えている。(福井工業大学：下川)
- 道の駅の規模検討において最低限必要な機能があるため、他施設を参照すること自体は問題ではない。独自機能において、議論されていない中で面積が出たせいで議論が性急になってしまったのではないか。普段は飲食をするスペースを多目的スペースとして活用する等の検討が必要。また、経営的な判断も必要。道の駅アリストぬまくまの最大の特徴は山と川だと思う。建設した後の時間も含めてオリジナリティについて考えるべきだと考える。大阪の道の駅では川を活用した事例もある。そういった工夫が必要だと考えている。(福山市立大学：辻)
- ・ 神楽は素晴らしいコンテンツである。例えば、山の中腹で神楽が行われ、下からは見えないけど音が聞こえるなどの体験など考えられる。(福井工業大学：下川)
 - 河川も活用できるのではないか。(ぬまトーク：河野)
 - 山や川の活用自体が町ぐるみにつながるのではないか。(中国「道の駅」連絡会：足立)
 - 数値だけの参照になっているが、神楽などの芸能を実施する道の駅他施設を参考にしては

どうか。(福山河川国道事務所：杉原)

4. その他 (1) 次回協議事項について【資料5】

長大から資料の説明を実施し、意見や質問の上がった項目について整理する。

- ・ 検討会議の第1回では伝え忘れていたが、本道の駅は道路管理者が整備する駐車場やトイレなどの基本機能と、市が整備する地域振興施設が複合的に設置され、一体となって運営される一体型の道の駅である。(中国「道の駅」連絡会：足立)
 - ・ 防災計画に関して、自衛隊や警察という記載があったが、詳しく説明してほしい。(中国「道の駅」連絡会：足立)
- 広島県道路啓開計画において記載があった部分を書いている。(事務局：卜部)
- 広島県道路啓開計画に記載があったからと言って設置しなければならないというわけではないことをご理解いただきたい。(福山河川国道事務所：杉原)
- EVについては、全国の道の駅でトラブルがあると聞いており、導入にあたり検討いただきたい。また、防災という言葉が独り歩きしている気がする。被災したときのことをもっとイメージしていただきたい。以前、住民からは、トイレ・灯り・道路情報を求める声が上がった。(有限会社アリストぬまくま：西迫)

以上

議事録

件 名	第4回道の駅アリストぬまくま再整備基本計画検討会議			
日 時	2025年11月6日（木） 10：00～11：30		場所	福山市沼隈支所4F大会議室
出席 (敬称略)	有識者	福井工業大学	工学部 教授	下川 勇
		株式会社インプリージョン	観光まちづくり プロデューサ	千葉 深香
		中国「道の駅」連絡会	事務局	足立 司
	国	国土交通省 中国地方整備局	福山河川国道事務所	杉原 義和
	県	広島県	東部建設事務所	池上 由美子
	市	福山市	文化観光振興部長	村上 美由紀
			南部地域担当部長	高田 幸恵
	道の駅駅長	有限会社アリストぬまくま	代表取締役	西迫 豪志
	地元	ぬまトーク		河野 真治
		ぬまトーク		佐藤 有香
	オブザーバー	国土交通省 中国地方整備局	道路部 交通対策課長	伊藤 等
		広島県	道路企画課	児玉 崇
	事務局	福山市	農林水産振興担当部長	卜部 光央
			農林水産課長	林 茂晃
			農林水産課 企画担当次長	徳永 嘉則
			農林水産課 主事	西田 昇
	ファシリテーター	株式会社長大		西坂、戸田、柚山
協議資料	資料1_スケジュールの変更について 資料2_産直部会、観光・体験部会の報告 資料3_モデルプランについて 資料4_次回協議事項について（基本計画素案） 別紙_配席図			

第4回道の駅アリストぬまくま再整備基本計画検討会議（以下、「検討会議」という）は、以下の次第に則り実施した。

0. 次第

1. 開会
2. 報告事項
 - (1) スケジュールの変更について【資料1】
 - (2) 産直部会、観光・体験部会の報告【資料2】
3. 協議事項
 - (1) モデルプランについて【資料3】
4. その他
 - (1) 次回協議事項について【資料4】
5. 閉会

1. 開会

要点を整理する。

- ・ 当初スケジュールから基本計画の公表についてスケジュールを変更した。（事務局：卜部）
- ・ 市の考え方を反映した導入機能を整理している。（事務局：卜部）

2. 報告事項

(1) スケジュールの変更について【資料1】

(2) 産直部会、観光・体験部会の報告【資料2】

福山市および長大から資料の説明を実施し、意見や質問の上がった項目について整理する。

- ・ シンポジウムについて詳しく説明してほしい。（中国「道の駅」連絡会：足立）
 - 市民の意識を醸成する場として開催する。（事務局：林）

3. 協議事項

(1) モデルプランについて【資料3】

福山市および長大から資料の説明を実施し、意見や質問の上がった項目について整理する。

- ・ 評価を C としているものの中にも次回の検討会議までに決めておいた方が良いものと繰り越してよいものがあるが、どのようにお考えか。例えばサテライト道の駅は今の場所ではないので、ゆっくりでもよい。コインシャワーやハーブガーデンは大きく建物の配置にも影響するので、次回までに決めないといけないのか、など、時系列が違う部分があると思う。（福山市：高田）
 - コインシャワーは、今のところ審議中である。設計の段階でできなくても、後で追加も可能と考えている。ハーブガーデンは、今のものを残すことはしない予定である。BBQ コーナーは、機能としては後から検討して作ることも可能であり、費用対効果をみながら検討したい。ドッグランは早急に整理して決めたい。キッズスペースは、優先度は C にしているが、どこにどのようなものがあるのかも確認しながら決定したい。サテライト道の駅は、今すぐに道の駅の中にあるということではないので、以降検討していく。（事務局：林）
 - 評価 C をどう判断するかは内部で整理する。また、サテライト道の駅の構想があることは示していきたいと考えている。BBQ コーナーやドッグランは、今のところ優先度は低い、消すことはしない方針である。（事務局：卜部）
 - 備蓄は市で一元管理し、支所も含まれており、分ける必要があるのかを、行政内で検討して、示せるものは示していきたい。（福山市：高田）
 - キッズスペースは近隣に大きな施設がなく、佐藤委員より図書館を利用してはという意見もいただいていた。今後整理していきたいと考えている。（事務局：卜部）
- ・ 検討会議で議論すべき内容について詳しく教えていただきたい。（ぬまトーク：河野）
 - 今回は市の考え方を示させていただいたので、それに対する意見を素案の中に盛り込み、機能だけでなく、運営の問題も含めて次の機会でも議論していただくことを想定している。（事務局：林）

- 評価 B と C を減らし、少なくなった中で決められれば良いと思う。その中で、C のサテライト道の駅は当初から設計に組み込む必要はないと思う。ドッグランも C になっているが、もし必要になった場合にどの場所を使うのか考えないといけないものがある。(ぬまトーク：河野)
- 本資料に掲載している表は、現状では整理が十分でなく、再構成が必要である。サテライト道の駅については、設計上必須の要素ではないものの、目指す方向性として設計者に示すべき内容であるため、現在付している評価 C にこだわらず、別表として扱ってもよい。重要なのは、市としての考え方が明確に反映されていることである。この資料はこれまで部会でも提示され、一定の議論を経ており、市の考え方は反映されていると認識している。しかし、検討会議は残り 1 回しかなく、設計者への誤解を避けるためにも、表の整理は不可欠である。なお、ハーブガーデンについては、ハウス内に設置するのであれば、独立した記載は不要であり、ハウスの表の備考欄で補足する形が適切である。また、部会と本検討会議の役割は、部会が本検討会議を補完する位置付けであり、A・B・C といった区分を付けることにより、設計者に意図を明確に伝えることが重要となる。(福井工業大学：下川教授)
- ・ 観光・体験部会では、「魚を使った体験」などのアイデアが出され、その中でキッチンスタジオも導入の可能性として挙がっていた。しかし、現在の整理案ではチャレンジショップは記載されているものの、キッチンスタジオの記載が見当たらない。キッチンスタジオは検討から外れたのか、または整理漏れなのかについて再確認が必要である。(株式会社インプリージョン：千葉)
 - 現行の記載には「キッチンスタジオ」が無くなっているが、イベント広場の活用によって同様の体験型イベントは実施可能と考えられる。(事務局：林)
 - 特産品開発を地域の方が行う場合、加工所が施設内にないと取り組みが難しい。近隣に加工施設があるのであれば問題ないが、単にスペースがあるだけでは対応できない。この点は体験・観光部会でも指摘があったため、もし加工所を設けない方針であれば、関係者へ事前に丁寧に説明する必要がある。(株式会社インプリージョン：千葉)
 - キッチンスタジオの説明は足りなかったと思う。新商品の開発、加工の施設は道の駅の施設としては加工施設を入れている。(事務局：林)
 - すべての選択肢を提示したうえで、キッチンスタジオを追加した案を示すのがよいと考える。また、部会の議事録を整理し、基本計画の添付資料として巻末に付けてほしい。設計プロポーザルで複数社(例：5 社)が参加する場合、提出された表や基本計画は必ず確認される。同時に、部会で議論された内容も重視されるため、基本計画には部会議論のポイントをしっかりと盛り込む必要がある。(福井工業大学：下川教授)
- ・ 観光・体験の機能において、従来のハーブガーデンを廃止し、ハウスを設置する案がある。地域としては独自にハウスを保有しているが、「ハウス」が具体的にどのような施設・機能を指すのかが分かりにくく、体験のイメージとややずれがある。体験には魚のさばき方やハーブなど多様なものがあり、観光体験機能の中で「発見・体験」を重視する方向性を伝えていくことが重要である。そのため、アリストぬまくまでどのような体験が可能かをある程度イメージできる形で整理する必要がある。また、南部地域全体で観光コンテンツづくりに取り組んでおり、沼隈地域の方とも相談しながら進めている。アリスト単体での体験提供にとどまらず、地域の複数箇所でも体験できる仕組みを意識することが求められる。その観点からも、「ハウス」という表現はやや限定的であるとの認識がある。(福山市：村上)
 - ハウスは現在でも、ハーブを目当てに訪れる利用者がいる。また、収穫体験など多様な体験の場として活用されている。それ以外の体験については、道の駅大学の活用や、イベント広場の屋外・屋内スペースを使った体験なども考えられる。ポイントは、特定の体験内容を限定するのではなく、幅広く体験の可能性を想定しておくことである。(事務局：林)
 - 体験コーナーがハウスという言葉だけになっているので工夫する。(事務局：ト部)
 - この表は重要であるが、現状では分かりにくい。そこで、基本計画に掲載する表として、工夫を凝らした 3 つの案を作成してほしい。複数案を示すことで、関係者が比較・選択できるようにすることが目的である。(福井工業大学：下川教授)
 - これまでの議論では記載内容が膠着していたため、3 つの案を作成することで、表現や見え方に工夫を加えたい。(株式会社長大)

- ・ 男性トイレには、すべての個室に子どもを一時的に預けられるスペースを設置してほしい。(ぬまトーク：河野)
- 5社が参加する場合、差が出るポイントはどこまで細かく設定するかにある。むしろ、こちらの意図を明確に伝え、各社からの提案を引き出す形にしてもよい。(福井工業大学：下川教授)

4. その他

(1) 次回協議事項について（基本計画素案）【資料4】

長大から資料の説明を実施し、意見や質問の上がった項目について整理する。

- ・ 輦方面とされているが、実際には福山市方面からの車がほとんどであるという印象がある。(ぬまトーク：河野)
- 道路網の全体図がないため、現状の交通状況だけを見ると誤った判断につながる可能性がある。福山市内からは県道を通して山越えでアクセスするケースが多く、交通は分散してくると考えられる。そのため、特定の交差点だけで判断せず、広い視点で道路網全体を把握することが重要である。また、県道を経由する場合は、県道の改良計画の有無も確認する必要がある。(中国「道の駅」連絡会：足立)
- ・ 冒頭でシンポジウムの話があったが、対象は福山市の皆さんへの説明と考えられる。ポイントは、現位置に道の駅を整備するという基本方針を明確に伝えることにある。これは、いわば「ぬまくまプライド」ともいえる考え方であり、交通量などの状況からも、この場所に道の駅を作る意義がある。その上で、どのような道の駅をつくるかという具体像を示すことが重要である。(中国「道の駅」連絡会：足立)
- ・ 駐車場規模の算定は、道路管理者が設置すべき国土交通省から示された設計指針（休憩施設設計要領）に基づいて算定する部分と、(市町が設置する)観光振興のために必要な部分があり、それぞれを分けて算定するべきである。(中国「道の駅」連絡会：足立)
- 交通量調査については、地元住民か観光客かの区別が分かりにくい面がある。駐車場の必要台数や現在の交通量は、現状の調査結果から把握するしかないが、今後の連携を考える上で、例えば阿伏兎観音への来訪者数や周辺観光地の数値を参考に、呼び込める人数を概算することは可能である。現実的なデータに基づき、「このくらいの人に来ていたので、呼び込むことができる」という見通しを立てることが重要であり、単なる夢物語ではなく、現実に基づく期待値として示せる。(株式会社インブリージョン：千葉)
- 交通量調査として参考にしており、来訪者の想定を実施はしていない。(株式会社長大)
- ・ 計画条件の整理で上位計画の位置づけがあるが、挙げられている2つで間違いはないか。(福井工業大学：下川教授)
- 基本構想で挙げられていたものを参照している。(株式会社長大)
- 基本構想はそうとして改めて確認した方がよい。(福井工業大学：下川教授)
- ・ 概算事業費は基本計画に掲載する予定か。(福井工業大学：下川教授)
- 掲載する。(事務局：林)
- ・ 7.事業実施に向けての課題と対応策について、これで終わるわけではなく、きっちり整理して、設計者に意図が伝わるように丁寧に整理してもらいたい。ポイントは時間軸だと考える。(福井工業大学：下川教授)
- ・ 承知した。(株式会社長大)

以上

議事録

件 名	第5回道の駅アリストぬまくま再整備基本計画検討会議			
日 時	2026年1月22日（木） 14：00～16：00		場所	福山市沼隈支所4F会議室
出席 (敬称略)	有識者	福井工業大学	工学部 教授	下川 勇 (WEB)
		福山市立大学	都市経営学部 准教授	辻 紳一
		株式会社インプリージョン	観光まちづくり プロデューサ	千葉 深香
		中国「道の駅」連絡会	事務局	足立 司
	国	国土交通省 中国地方整備局	福山河川国道事務所	杉原 義和
	県	広島県	東部建設事務所	池上 由美子
	市	福山市	参事（兼）経済環境局長	中津 雅志
			南部地域担当部長	高田 幸恵
	道の駅駅長	有限会社アリストぬまくま	代表取締役	西迫 豪志
	観光・体験部会	福山観光コンベンション協会	専務理事	上田 英夫
	地元	ぬまトーク		佐藤 有香
	オブザーバー	国土交通省中国地方整備局	道路部 交通対策課長	伊藤 等
		広島県	道路企画課	児玉 崇
			東部建設事務所 事業調整 特別版 参事	脇坂 宏樹
		福山市	文化観光振興部長	村上 美由紀
			観光戦略課長	住吉 俊樹
		事務局	福山市	農林水産振興担当部長
	農林水産課長			林 茂晃
	農林水産課 企画担当次長			徳永 嘉則
	農林水産課 主事			川口、舂野
	ファシリテーター	株式会社長大		今井、西坂、戸田
協議資料	資料1_観光・体験部会の報告 資料2_基本計画素案について 資料2-1_資料 資料2-2_これまでの検討会議、観光・体験部会、産直部会の議事録 別紙_配席図			

第5回道の駅アリストぬまくま再整備基本計画検討会議（以下、「検討会議」という）は、以下の次第に則り実施した。

0. 次第

1. 開会
2. 報告事項
 - (1) 観光・体験部会の報告【資料1・せとうちエレジーパンフレット】
3. 協議事項
 - (1) 基本計画素案【資料2_基本計画素案・資料2-1_資料・資料2-2_これまでの検討会議、観光・体験部会、産直部会の議事録】
4. 閉会

1. 開会

要点を整理する。

- ・ 基本計画素案はこれまでの検討会議、関係部会等から整理をしている。（事務局：卜部）
- ・ 来月パブリックコメントを実施予定。（事務局：卜部）
- ・ 前回の検討会議で、第6回を3月末に実施する予定としたが、大幅な変更がなければ、今回で対面の検討会議は最後とし、今回は書類観覧でのご報告とさせていただく予定とする。（事務局：卜部）

2. 報告事項

(1) 観光・体験部会の報告【資料1】

長大から資料について説明を行った。説明の概要は次のとおりである。

- ・ 観光情報発信に関して福山市より説明した。
- ・ 情報の収集と発信方法、ターゲットの設定、役割の整理が重要であるということが確認された。
- ・ 南部地域全体での観光振興の推進について現状の報告があった。
- ・ 地元連携した体制構築が重要である。
- ・ 千葉委員より、道の駅を通じた地域活性化と観光活用の必要性が指摘された。

せとうちエレジーの説明【せとうちエレジー】

- ・ ブランド力を上げていこうということで実施している。期間は、2月1日～3月29日まで。（上田委員）
- ・ 21のプログラムがあり、申込する際には、会員登録が必要で、会員登録した後に好きなプログラムを選んでもらう。会員登録することにより、会員の属性を入手し、今後の情報発信やPRできるようにしている。（上田委員）
- ・ WEBを活かしたシステムになっている。（上田委員）
- ・ 時間がなかった中で、沼隈半島で事業者がやりたいということで21のプログラムを作った。
- ・ 毎週ではなく、できる日でプログラムをつくっている。（上田委員）
- ・ 会員登録が200を超えており、申込も200を超えている。（上田委員）
- ・ 体験というメニューの、地元の方の顔、案内人の方々のコメントがあり、安心感があるのか、予約は好調である。（上田委員）
- ・ そんなに多くない設定費なので、満員で予約できないものもある。追加で実施できるものについては、事業者と協議の上進めていきたい。（上田委員）
- ・ 来年も実施いただけるということで、来年度も秋か冬に実施していき、プログラムの内容を精査しブラッシュアップしていきたい。（上田委員）
- ・ 最終的には、道の駅ができるまでにどのようなプログラムが残っていくのかわかると思うので、道の駅の観光案内で引き取ってもらえればと思う。（上田委員）
- ・ 開催日程で定員が3/10人等の書き方と書いてあるが分かり難くないか。料金が11,000円となっているが、4人で11,000円なのか。全体としてわかり難い数字の並べ方ではないか。（下川先生）
 - 1人が11,000円である。システムは全国で利用されているものである。（上田委員）
 - 普通は、残り数を書く場合が多く、こちらは申し込まれている人数が書かれている。（千葉委員）

3. 協議事項

(1) 基本計画素案について【資料2】

- 福山市から資料の説明を実施し、意見や質問の上だった項目について整理する。
- ・ 事前に資料を拝見していた。内容的にはきちんと整理されているし、書かないといけないことは書かれて、網羅されている。修正すべき点としては、市民に対してわかりやすい表現に変えていくことは必要と考える。(下川委員)
 - ・ ご検討いただければというところで、目標設定の数値が設定されていなので気になる点である。(下川委員)
 - 今、こんな目標値ということは準備できていないが、4 頁の中に需要予測として、事業者数と事業額は提示しているので、考えとしてはこちらが想定値になるので、目標とわかるような書き方にできればと思うがいかがか。(事務局：林)
 - 数値はそれ以外にも、道の駅にはいろいろな事業を実施する施設が入ってくるので、各施設の稼働率（広場の使用率）などから収益性の予測をするのでは。(事務局：卜部)
 - この施設は税金をかけて作っていくので、どのくらいの効果を持つ施設なのかを一般的には出していく。いわゆる KPI の設定が必要。どの視点で検証すればよいのか、見えていないので、検討していただければと思う。(下川委員)
 - 検討する。(事務局：林)
 - 施設の利用人数の想定があるので、それらを踏まえて福山市さんと KPI を決めていく。(長大)
 - 3～5 年後に評価ができるように、評価基準を盛り込んでおく必要があるのでは。(下川委員)
 - ・ みなさんの意見がなるべくどこかに入っていれば良いと思っている。だんだん筋が見えてきて、一つの幹に収めてきた道筋が良くわかる。観光、地域振興の観点から、道の駅というものを R11 年までにどこまでをやるということを明確にする資料。これから、活用しようとする沼隈地域や福山市民のワクワク感や期待感が予算の中に納まっていく考えの中で、少しそぎおとされてしまったかなと思う。(千葉委員)
 - ・ R11 年度までの整備に加え、今後、裏山の活用や川の活用は注釈に記してある。体験、ハッケンというキーワードとして入れているのであれば、今後の道の駅で体験をすることは考えていないということで、未来的な創造、裏山、や川を活用した体験、阿伏兎観音やせとうちエレジーとつながっていくという施設であるということをしっかり描いていく一枚が何かできればと思う。R11 年までではなく、みらいにむけて、地域の方が夢を語る余白を残せればと思う。(千葉委員)
 - 地域への経済波及、周辺の観光体験を今後も観光部門と連携していくことが分かるようにするというご指摘で良いか。(事務局：林)
 - ご質問の通りである。(千葉委員)
 - ・ 事業内容について、道の駅の管理運営をしていて、事業の分け方、分野毎にわけると、施設の管理、自主事業、休憩機能、情報発信、連携機能がある。道の駅の運営事業として区分するほうがよいのではないか。(西迫委員)
 - 施設の管理と事業が分かるようにすべきという指摘だと理解した。28 ページの前段に三大機能は記載している。これとは別に指定管理者にお願いしたい機能として、外出ししている。自主事業は、指定管理者の手腕に委ねるところであるため。(事務局：林)
 - 効果を期待した自主事業として記載した。道の駅の業務になかなか触れられていないので、道の駅の業務がわかるような記載があってほしいと思う。(西迫委員)
 - 5.2.1 に加えたいと思うので、相談しながら決めさせていただければと思う。(事務局：林)
 - ・ 先日のシンポジウムは、とっても手ごたえがあったのではと思う。周辺住民の皆様の反応に前にいてすごく手ごたえを感じた。その時の意見をまとめておくと、今後、応援団になるのではと思う。(中国「道の駅」連絡会：足立)
 - 今後、パブリックコメントも皆様の意見を整理することになると思うので、配布する形を意見をとりまとめて、皆様に配布したいと考える。(事務局：林)
 - ・ 道の駅アリストぬまくまの位置についてなぜこの位置でという話になる可能性がある。目的は道路利用者へのサービス向上、ドライバーの休憩施設で、広島県の一体型として、道路上この位置が適しているということを示さなければならない。(中国「道の駅」連絡会：足立)
 - アリストぬまくまはクロスポイントになり、交通量から示せるのではないかと考える。(中国「道の駅」連絡会：足立)
 - ・ 利用しやすい道の駅は車と人の動線が肝要である。入口がクランクになっており、道路施設

として危険なものになると問題があるのではないかと。また、どこに大型車の動線を確保していくのか考えておく必要がある。今のハーブガーデンに大型車の駐車場を持ってきたとすると、住宅地があるので、問題が起きるのではないかと。また、バス停の動線をどうするのか。施設ができるとバックヤードができるのでどのように持っていくのか。(中国「道の駅」連絡会：足立)

→ モデルプランを示すにあたり具体的な絵をもとに指定管理者と市と協議を実施してきたが、今一度確認する。(長大)

→ レイアウト、費用負担は市と調整しながら進めていきたいと考えている。(オブザーバー：広島県 脇坂)

- ・ この橋が問題であるという話はしたが、この点、道路管理者はどのように考えておられるのか。市長からは、道の駅が道から見えるような施設であると良いという意見があったが、盛り込んでいただければと思う。(中国「道の駅」連絡会：足立)

→ 道路管理者の広島県とも協議させていただければと考えている。(事務局：林)

情報発信機能、福山市さんが設置すると書いているが、道路管理情報は道路管理者が設置するのではないかと。広島県がされているのであれば良い。(中国「道の駅」連絡会：足立)

→ 情報発信は市が整備する。(事務局：林)

- ・ 概算事業は県が整備する部分も含めているか。(中国「道の駅」連絡会：足立)

→ 全体の概算事業費になっている。(事務局：林)

- ・ 自主事業の部分で、地域振興施設は指定管理業務の中で情報提供も野菜の販売も入っている。施設をつかって自主事業をあえて書くことは意味が通らないのでは。

→ 自主事業は自由に実施していただくということで、期待される自主事業として記載しなす。(事務局：卜部)

- ・ 施設のターゲットが書いてある部分で、基本構想はインバウンドの記載はなかった。海外の方が、車で来られることは無いので、インバウンドを記載する必要はないのでは。この施設がしっかり活用されるかどうかは、観光需要がどのように関係するのか、地域振興をどのように進めていくかが課題で、インバウンドを書く必要があるか(福山市：高田)

→ 基本構想の中で、インバウンドの記載もある。一足飛びにインバウンドが来られるとは考えていない。将来的にはインバウンドの対応も必要。(事務局：林)

→ 文章の理解の仕方でも変わるため、確認が必要。(福山市：高田)

- ・ コンセプトに沿った形で形としてはできていてワクワクしながら読まさせていただいている。見せられる情報、見せられない情報もあるなかで、作られていると考えている。最終的に、施設ができあがったところ、1,200以上ある道の駅で勝ち残っていくキーワードとして、ここにしかないものが何かが重要。ぬまくまのものが考えたものを考えていかなければ。山があり、川がありということを使えないか。沼隈にしかないものを上手に盛り込めないか。ただ、難しいところもあるが、議論の余地があれば、ここにしかないものをいかに工夫して、上手に活用できる方法を模索できると良いのでは。(辻委員)

最初の時は、夢膨らむわいわい意見を出させていただいた。地域にとって大事であるというところにもっていくところにも、わかりやすい形であったり、図書館の連携の良さがある。

- ・ 図書館との連携がうまくいくことが地域らしさを残すことが良いのでは。小中学生の居場所となる図書館が隣にあるということが良い。

→ この施設のプライオリティが高いものが記載上にくるということで、一番最初に図書館との連携について記載している。(長大)

- ・ 道路管理者 道の駅の一翼を担う立場で、参加させていただいている。情報発信施設は道路管理物として整備ができることになっている。福山市が設置主体となり、と記載がある。休憩機能は道路管理者でもできるので、もう少し協議したらよいのではないかと。三原の道の駅では、直轄であり、駐車場、母屋があって東側にトイレがある。これは国が整備している。

→ 古い時代のことをすべて理解しているわけではないが、この道の駅は非常に古く、旧沼隈町と広島県で協力し道の駅を設置された。その時の役割分担を踏襲している。休憩スペースを県が管理している土地で限定し、それ以上どこかを取得するということは福山市と協議できていない。県がまったく協力しないというわけではないが、過去の経緯もあるため、このような役割分担となっている。(広島県：池上)

→ 軀未来トンネルができ、新たな交通需要ができて、どうあるべきか、過去の経緯からではなく、どういう道の駅が良いか基本計画に反映されるべきではないかと。(中国「道の駅」連絡会：足立)

→ 広島県と良く協議をすすめていこうと考える。(事務局：卜部)

- ・ 皆様の意見を聞いていて、施設を利用するという観点で工夫が必要。基本計画に書くかどうかという点もある。(下川委員)
 - 28 頁に(3)を新たに作り、関連団体事業という項目をつくることができないか。そして、7. 課題と対策につなげる。ソフト事業でこの施設はどんどんよくなる。観光コンベンション協会の活動は大きな柱になり、地元の方が関わることを前提とした枠を作っておく。指定管理の中で対応するのか、市が別枠で事業を進めるのかは検討が必要であるが、よりソフト事業を推進するのでは。一般的には書かないので、書けるのか検討が必要である。ぬまと一くがここに関わっていくという保証がなく、関連団体と記載しておく活動が担保されるのではないか。(下川委員)
 - 地域の活動を支援する行政のスタンスの話としてお聞きした。
 - ぬまと一くは、地域の何か変わっていくのではないかという期待感がある中で、賑わい創出につなげる思いで実施している。お金をつければずっと活動が続くのではなく、おもいが醸成されることが重要と考えており、来年度も続けていこうとしている。28 頁はアリストぬまくまに限っての内容を記載している。31 頁の中で、住民同士のつながり、イベントであったり取組の活動は行政としてもやっていこうと思っていることを書いている。31 頁の記載をしっかりと具体化しながら、行政が予算をつける必要があれば、検討すべきだと考える。(福山市：高田)
 - 市から、福山城築城のイベントを応援する、フクヤマビジットイベントを開催する人を一部助成する制度がある。最終的には、イベントを自立して民間がやっていくことが前提である。あまりたくさんイベントをすると駐車場の件が心配。満車になる可能性もあるので、第2、第3 駐車場を考える必要がある。(上田委員)
 - 観光コンベンション協会は、このアリストぬまくまに対してもし名前を付けるとしたら協力団体？併走団体？どちらなのか。(下川委員)
 - 観光振興を推進する協力という形で考えている。各事業のかかわりは一言では難しいが、関連団体と言えば関連団体なのではないか。観光に関しては関連団体。イベント誘致の依頼があれば、声をかけていただけたら。物産の展示販売のアドバイスや願いをしたり、関連になったり協力になったりするのでは。(上田委員)
 - 関連する団体を整理しておく方が良いのではないか。(下川委員)
- ・ 既存施設を壊すときに重機が複数台入り、資材をストックしないとしないため今の駐車場が使えなくなるので、川の反対側などに、臨時駐車場を確保しておく必要がある。この臨時駐車場が第2 駐車場になっていくのではないか。(下川委員)
 - 事務局側で整理。(事務局)
- ・ チャレンジショップの記載がなくなった経緯について。(千葉委員)
 - 28 頁の期待される自主事業は、指定管理者が実施される事業のことで記載されている。(事務局：林)
 - 道の駅がその場をお貸しして、地元が取り組める場として使っていただけたということが伝われば、地域振興につながると考える。(千葉委員)
- ・ 注釈の字が小さいので大きい字にした方がよいのではないか。(千葉委員)
 - そのように対応する。(事務局)

4. 閉会

予定をしていた対面形式での検討会議は本日を持ち最後とする。(事務局)
 2 月にパブリックコメントを実施し、市民の意見をきいて基本計画を策定する。
 来年度からは基本設計に入る予定。(事務局)
 再整備にあたっては、地域の皆様と作り上げていくこととしているので引き続きご協力をお願いしたい。(事務局)

以上